

# オンラインセミナーのご案内

6月12日(土)13:30~

<https://meet.google.com/jox-ogux-pdg>

## テーマ「薪乾燥システムの開発・改良」

下記の新聞記事に取り上げられた薪の乾燥システムについてご紹介します。



# 再生エネ「薪」生産拡大へ



木くずや木の皮をボイラーで焼やし、その熱源を使って温風を発生させる

### 阿蘇市のNPO 新技術

かつては暖房や風呂の熱源などとして重宝されていた薪。近年、地球温暖化防止の観点から再生可能エネルギーとして再評価され、阿蘇地域でも個人宅や店舗に薪ストーブの設置が進む。阿蘇市のNPO法人九州バイオマスフォーラム(KBF)はこの脅、これまで課題だった薪の乾燥期間を大幅に短縮する技術を開発。エネルギーの地産地消や林業の活性化に向け、生産拡大を目指す。

KBFは2009年から、光の当たり具合で乾き具合から薪の生産を開始。しかし、合にむらが生じ、カビやし、阿蘇地域は降水量が、キノコ類の発生にも悩ましく、自然の光と風による乾燥では、薪として使えるまで針葉樹で半年、野庁の実証実験として乾燥システムの開発を受けていた。「拡大する需要に、期間短縮や高品質化に供給が追いつかない」に着手した。

新システムは2段階に

## 乾燥1~2年→3カ月に



温風を送って薪を乾燥させ、仕上げる

分かれる。まず、積み上げた薪をポリフィルムで覆い、送風機を設置して空気を循環させる。仕上げに2~3日間、薪として使えない木くずや皮、根に近い部分などをボイラーで燃やし、発生した熱を温風に変え、さらに乾燥させる。

完成までの期間は針葉樹、広葉樹とも3カ月以内と、従来より格段に短縮。火付きが良く、大気汚染につながる一酸化炭素(CO)の発生が少なく、含水率17~18%の高品質な薪を、安定生産できるようになった。年間供給量は従来の2倍となる約1千立方メートルに増える見込みだ。

木くずや皮などを活用し温風を送る仕組みは薪以外にも、ビニールハウスでの農産物生産や、ドライフルーツづくりなどに応用できると、建材やパルプ材として切り出された木のつち、根や光

端部分など4~5割は利用できず、土木工事などに際して切った木もこれまでに利用価値がなかった。中坊事務局長は「未利用材を活用した薪づくりは林業の経済活動の幅を広げ、森林整備にもつながる」と話す。

政府は二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)など温室効果ガスの排出量を50年までに実質ゼロとする目標を掲げ、薪を燃やして出たCO<sub>2</sub>は元々、木が光合成で吸収したもの、化石燃料の代わりに使えば、CO<sub>2</sub>削減に貢献できる。海外などから化石燃料を輸送する際には多量の燃料を使う。一方、KBFの新乾燥システムは地域内の未利用材を木くずまで無駄なく使い切る。薬師堂課一理事長(65)は「小規模でも、地域で再生可能エネルギーを循環させる仕組みづくりを広げていきたい」と意気込んでいる。(東晋晃)